



飯田市立病院ニュース

飯田市立病院・高松分院広報

編集・発行／飯田市立病院広報編集委員会 〒395-8502 長野県飯田市八幡町438番地
TEL●飯田(0265)21-1255(代) FAX●飯田(0265)21-1266 http://www.imh.jp.

電子カルテの運用始まる

四月からは外来を含めた全カルテを電子化

平成十三年十二月に厚生労働省の策定した「保健医療分野の情報化にむけてのグランドデザイン」の最終提言により、平成十六年度までに全国の二次医療圏毎に少なくとも一施設は電子カルテの普及を図ることになっていきます。

当院でもこの目標に向け、既存のオーダリングシステムを拡張し、二月二十三日に「電子カルテシステム」を稼働させました。平成十六年三月までは、入院患者さんについてのみ運用を行っておりましたが、十六年四月以降は外来を含めた全患者さんのカルテを電子化していきます。

カルテの電子化を行うことで、患者さまの診療情報を一元管理し、質の高い医療を提供するとともに、病院の診療業務・医療事務業務の効率化を図ります。

たとえば、複数の診療科に受診されている患者さまのカルテを電子化し一元化することで、担当医師同士で診療情報を共有することが可能になったり、同じような疾患の患者さまの治療成績を参考にし、最善の治療法を選択する根拠として利用することが可能となります。

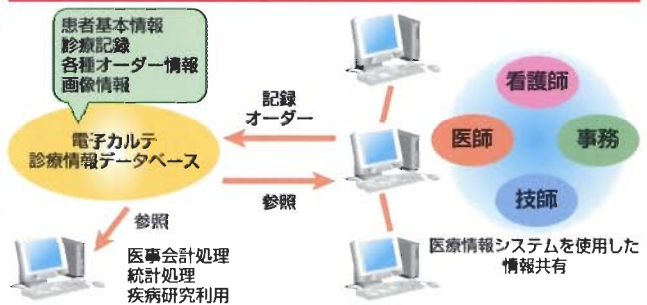
また、診療業務・医療事務の効率化により、患者さまの待ち時間を短縮したり、不要な紙書類を削減することでカルテの保存スペースの有効活用、資源の有効利用が可能となります。

患者さまの診療情報を有効活用し、質の高い医療を提供できるような医療情報システムを構築してまいりますのでご期待下さい。

【情報管理係】

※関連事項二面に掲載

カルテの電子化で、診療情報の一元管理が可能に



▼用語の解説▲

●電子カルテ●
「電子カルテ」とは、従来紙に記載・保存されていた「カルテ」（診療録）を電子的に記載して保存するものです。

●オーダリングシステム●
「オーダリングシステム」とは、診察医が患者さんの状態を把握するための各部門への検査（例／採血検査・放射線撮影）依頼や注射等の指示を、電子的にやり取りすることをいいます。

お知らせ

- 電子カルテ化、今後の予定
- 卒後医師臨床研修制度がいよいよ開始

話題の広場より

- 日本医療機能評価機構の認定更新への取り組み

（電子カルテは二月から
病棟で先行開始）



お知らせ 病院のうごき

電子カルテ システム 今後の予定

今回の電子カルテシステム導入は、既存のオーダーリングシステムのバージョンアップと電子カルテシステムの機能解放により稼働させています。今後、付随する各種システムを段階的に稼働させていく予定です。予定については後述のとおりです。

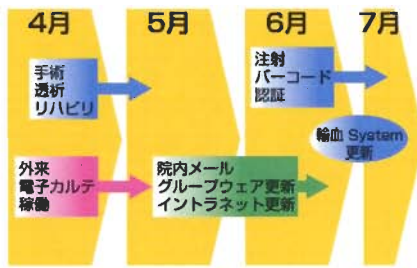
四月一日からは外来での電子カルテシステムも稼働開始となりました。今後の予定としては、手術オーダーシステム、透析オーダーシステム、リハビリオーダーシステムを五月までの間に順次稼働させます。また、六月には注射のバーコード認証システムが稼働予定です。そのほかに、輸血システムを更新を予定しています。また、新しい院内の情報伝達手段として院内メールシ

ステムの稼働、院内グループウェア（現在の施設予約システム）の更新、業務系のイントラネットの更新を予定しています。

これらの一連の電子カルテシステムおよび各種業務支援システム群を利用して、質の高い医療の提供、業務の効率化を目指していきます。

【情報管理係】

各種システムの段階的稼働計画 医療情報システム稼働スケジュール



卒後医師 臨床研修制度が いよいよ開始

【千賀 脩】

今年四月より新しく始ま

る卒後医師臨床研修制度に向けて、本年二月十二日に第一回飯田市立病院臨床研修管理委員会が開催されました。この中で、飯田市立病院独自の臨床研修プログラムおよび信州大学と長野県内関連の統一研修プログラムの申請状況や経過などが報告されました。

当院独自の研修システムに関しては、管理型臨床研修病院を飯田市立病院とし、協力型臨床研修病院を長野県立駒ヶ根病院および医療法人栗山会飯田病院に、また協力型臨床研修施設として長野県立阿南病院、泰阜村立泰阜診療所があたることになり、それぞれの施設長が出席しました。

まず最初に、飯田市立病院における臨床研修医募集状況が報告され、当院には募集四名のところ八名が応募し、面接、作文、書類選考などにより、昨年十一月にマッチングした研修医四名が決定しました。

一方、信州大学における臨床研修医募集状況に関しては、募集九十名のところ

マッチングしたのは五十名でした。信州大学の場合、平成十六年度はたすきがけ方式でいき、関連十八病院に一年目として二十四名が出る事が決定しました。関連病院で当院と同じく研修医を自前で募集した病院は十五病院であり、このうち定員を満たしたのはわずか四病院のみで、応募者なしの病院が六病院もありました。このため当院では、当初信大からのたすきがけの研修

「集団活動やっています」

みんなの笑顔が みたいから

こんにちは。高松分院では作業療法の一環として集団活動を行っています。二十人前後の参加者の中で簡単な体操・ゲーム・季節行事（例えば春には飯田高校のお花見、冬にはクリスマス会・講師を招いての絵手紙教室など）をしています。参加者の皆さんに「今日は楽しかったなあ」と言ってもら



【高松分院】

えることを目指して、私達も楽しみながら取り組んでいます。

医を四名予定していましたが、最終的に二名のみになり、自前の研修医と合わせて六名となりました。当院の臨床研修スケジュールは、三月二十日から行われた医師国家試験の発表の四月二十二日を待って、オリエンテーションプログラムを行う予定です。研修医の実質的な研修開始日は連休明けの五月六日となる予定です。

日本医療機能評価機構の認定更新への取り組み

【松下 高暁】

飯田市立病院は平成12年1月24日に日本医療機能評価機構の認定を受けました。この有効期間は5年間。平成17年1月までに認定更新を行わなければなりません。この機能評価機構の認定を受ける目的は、病院の提供する医療サービスは、患者ニーズを踏まえつつ、質の高い医療を効果的に提供することです。今、飯田市立病院では質の高い良い医療を提供しているという自負はありますが、本当に我々の提供している医療が質の高い、患者ニーズに適応した医療提供となっているのでしょうか。

この点を第三者により日本の医療の標準に合わせて評価してもらい、その結果、良い所は自信を深め、足りない所は補っていく目的で認定を受けるものです。この5年間に医療ではいろいろと大きな変化がおきました。それに伴い病院機能評価も第3版から第4版に変更されました。認定する領域や項目などが変更、

第三者の目から

病院の評価を受けます



増加され、認定に際して大変にハードルが高くなり、その結果、すんなり通るのは約1/3で、残りは何らかの修正や改善を求められ、その上で認定される状況です。全職員の参加なくしては、とても1回で認定される状況ではなくなってきました。積極的な全員の参加で一発でクリアしましょう。

話題の広場



機能分化による「新たなリハビリテーション」 =回復期リハビリテーション病棟について=

ここ数年、『自己完結型の医療から地域完結型の医療へ』を合言葉に、医療現場では病院と診療所、病院と病院との医療連携に対する認識が高まっています。また、国の方針でも医療機関の機能分担により、患者さまを地域全体で診療する方向に進んでいます。リハビリテーションの分野でも機能分化が進んでおり、現在のリハビリは、当院のような急性期病院が行なう急性期リハビリ、日常生活能力の向上による寝たきり防止と家庭復帰を目的とした回復期リハビリ、更には介護療養型医療施設で行なう機能維持を目的とした維持期リハビリに分類されてきています。

飯田市立病院では、下記の対象疾患対象者で、目的に合致した患者さまは、飯伊地方に新たに開設された回復期リハビリテーション病棟に紹介しています。回復期リハビリ病棟の特徴は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士等が共同でプログラムを作成し、集中的にリハビリを行なうこととされており、最長180日間の入院が可能となっています。（現在は、健和会病院と輝山会記念病院に回復期リハビリ病棟が整備されています。）

回復期リハビリテーションの対象疾患

- ①脳血管障害
- ②脊髄損傷
- ③大腿骨頸部骨折・下肢・骨盤骨折
- ④手術や肺炎等後の廃用症候群

※入院時に上記疾患発症後3ヶ月以内の患者



(参考写真)
健和会病院さんの
回復期リハビリ病棟

なお、飯田市立病院高松分院においても、回復期リハ病棟と同様、当院と一貫した継続性のあるリハビリテーションを行なっています。紹介をご希望される患者さまは、主治医にご相談ください。

【地域医療部 医療福祉係】



●新シリーズ●

その1

職場紹介

【薬剤科：大島】

薬剤科には、調剤室、注射管理室、D I室、製剤室、無菌室があります。

当院では、2年前より外来調剤は原則院外処方箋となっていますが、調剤室では、入院患者さまの調剤と院外処方のできない一部の外来の調剤をしています。

注射管理室においては、入院調剤と抗がん剤や高カロリー輸液の無菌調剤を行っています。また、製薬会社で作っていない特殊な薬の調剤もしていますが、これは薬によって薬物の血中濃度を測定し、患者さま個人に見合った投薬量を算出する必要があります。

D I（医薬品情報）室では、広く国内外からの薬剤情報を集めて分析し、病院スタッフや患者さまに提供するとともに、入院中の方についてはベッドサイドでの、薬効、使用方法、副作用などを説明し、様々な疑問にお答えしています。

外来患者さまには、外来カウンター横のお薬相談室を設けてありますので、お気軽にご相談ください。

本年2月より稼動しています、電子カルテシステムの中でも、薬の投薬量や相互作用をチェックするシステムも稼動しており、より正確で安全な医療提供の体制も整備されています。



（外来カウンター横：お薬相談室）

四月は異動の多い月です
資格変更を忘れずに

ご本人あるいはご家族に退職・就職等がされる方がいる場合、保険証の資格もそれに伴い変更となる場合があります。特に三月から四月にかけては資格変更が多くあります。

病院に受診される際は、初めての方はもちろん、継続受診の方につきましても、月に一度は必ず保険証

各種資格者証の提示をお願いいたします。また、資格等に変更があった場合も、早めに窓口への提示をお願いいたします。



【医事課】

かかりつけ医を持ちましょう

飯田市立病院では、「かかりつけ医」の先生方との医療連携を積極的に行っております。

当院での治療が完了したときや、病状が安定したときは「かかりつけ医」の先生に診ていただくことをおすすめしています。

初診の患者さま（新しい診療科を受診される場合）には、「かかりつけ医」の

先生方にご相談いただき、「紹介状」をお持ちいただくことをおすすめしています。

診療や高度な検査・入院などを、より安全で効率的に提供させていただくためのものです。また、患者さまにとっても高度な医療を安心して受けられるなど、多くのメリットがあります。

かかりつけ医に対するご相談は、受診時にお気軽にお申し出下さい。

【地域医療総合連携室】

かかりつけ医を持ちましょう

飯田市立病院では、「かかりつけ医」の先生方との医療連携を積極的に行っております。

当院での治療が完了したときや、病状が安定したときは「かかりつけ医」の先生に診ていただくことをおすすめしています。

当院へ初めて受診される場合（新しい診療科を受診される場合）は、「かかりつけ医」の先生に相談し、紹介状を書いていただくことをおすすめします。



編集後記

当院の「電子カルテ全面運用」に際して、想像を超えるIT関連技術の進化を、肌で改めて感じています。二十年程前には「コンピュータで字が書けること」に驚いたり、進化する「MS-DOS」に、新鮮な刺激を受け続けたり。今となつては驚きもどこへやら。でもノスタルジックなオールドコンピュータには、何となく人間味があつて、社会的や個人的な思い出も同居していたような、そんな気がする今日この頃です。

【編集委員会 寺澤保義】